

# 6. 公園で確保する機能・施設等の配置の検討

## 6.1 敷地利用の前提条件整理

施設配置検討に先立ち、公園整備を考えるうえで、前提とすべき既存利用やインフラの整備条件を図面に集約。

### ■ 現状機能を保持すべき区域

#### 【ゾーン】

- 駐車場 (※1 薪能: テントエリア)  
(※2 薪能: 客席・ステージ)
- 木立ちの遊びゾーン
- スポーツ施設ゾーン
- あやめ鑑賞ゾーン

- #### 【施設】
- 近年国庫補助により整備した施設
  - トイレ

- #### 【動線】
- ↔ 自動車による公園入退場
  - ↔ 水辺へのアクセス・水辺の横断

★1: 安曇野市地域防災計画における緊急指定避難場所

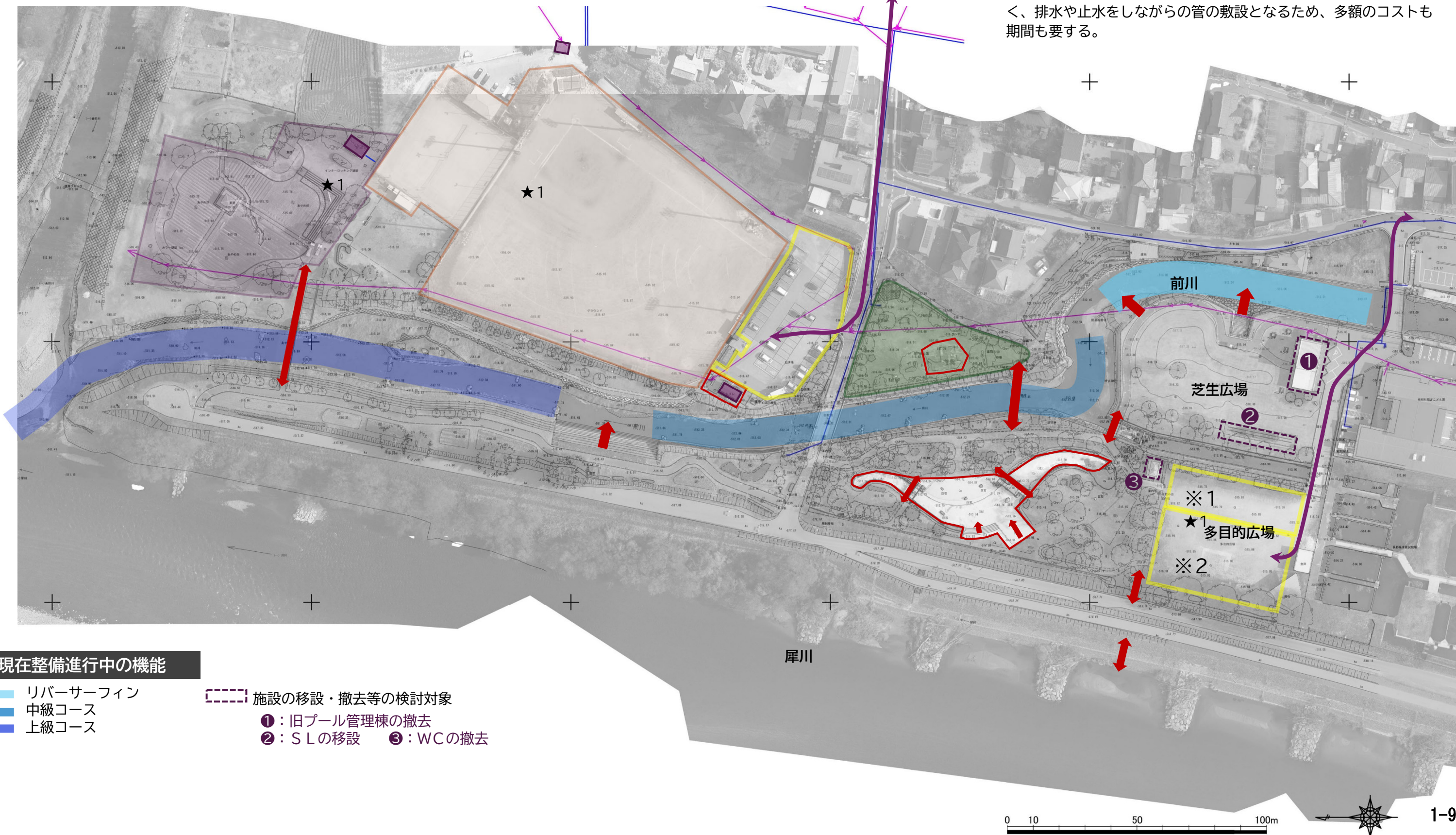
### ■ 上下水接続条件

- 既存下水管
- 水道 (公園敷地外: 本管)

### ■ インフラ整備に関する条件 (補足)

○R4.6.20に、それまで汚水を単独の区域で処理していた明科処理区を、将来的な維持管理の効率化等を念頭に、安曇野市都市計画下水道区域に追加することを都市計画決定。これにより、明科地域の汚水は公共下水道への接続が必須となった。

○このため、現在多目的広場側にあるトイレの機能を維持するには、前川左岸側の下水道に接続する必要がある (浄化槽の更新・単独処理は選択肢としてない)。しかし、地盤が軟弱で地下水の湧出量が多く、排水や止水をしながらの管の敷設となるため、多額のコストも期間も要する。



### ■ 現在整備進行中の機能

- リバーサーフィン
- 中級コース
- 上級コース

- 施設の移設・撤去等の検討対象
- ①: 旧プール管理棟の撤去
- ②: SLの移設
- ③: WCの撤去



## 6.2 空間整備と利用方針 および動線の設定

9ページの図面をベースにして、新たに整備する空間のゾーン配置と動線を重ねて表示。

ゾーニング・動線とセンターハウスの配置計画（宿泊機能以外の広場空間の基本配置、動線設定の方針）を整理。

### ア・イ 芝生広場～多目的広場一帯

- アは芝の広がり、イは既存木の一部をそれぞれ活かす広場とする。
- センターハウスは広場と一体利用可能な軒のある設えとし、イの動線工作部には屋根付き空間を一体的に確保。滞在時の居心地の向上につなげる。

- アとイの移動を円滑にするため、水産試験場排水路を横断できる動線を確保する。

### センターハウス＝芝生広場へ配置

- 1) 広場との一体的な整備が必要
- 2) 下水道等のインフラの効率的な接続とコスト縮減
- 3) 地盤の安全性及び地歴の確実性
- 4) 民有地が存在しないこと
- 5) 前川と池とのつながりを確保しやすいこと

整備するセンターハウスの規模については  
宿泊の有無で以下の2つを候補

- 候補① 運営・体験交流、飲食提供の機能（680㎡程度）＋合宿利用 40人収容 320㎡程度 2F建て
- 候補② 運営・体験交流、飲食提供の機能（680㎡程度）1F建て

### ア 参考イメージ

佐賀県江北町のみんなの公園。5500㎡の広場のなかに、カフェ、交流空間、トイレを整備（屋根面積約440㎡）



コンパクトな2F建ての建物と広場（南池袋公園）

### 龍門淵公園・あやめ公園一帯 施設配置検討図

#### 公園空間（ゾーン）

##### 既存の機能の維持

- あやめ植栽・運動施設
- 近年国庫補助により整備した施設
- トイレ

##### 公園整備・改修

- イベント・体験利用の空間  
屋根付き空間と一体での体験  
ア・イ 交流活動のゾーン
- 水辺体験導入ゾーン  
止水面での水辺体験
- 前川沿いの滞留空間づくり
- エントランス広場整備
- 犀川を眺めながらの滞留空間
- 前川整備  
リバーサーフィン  
中級コース  
上級コース

#### 動線

##### 既存の機能の維持

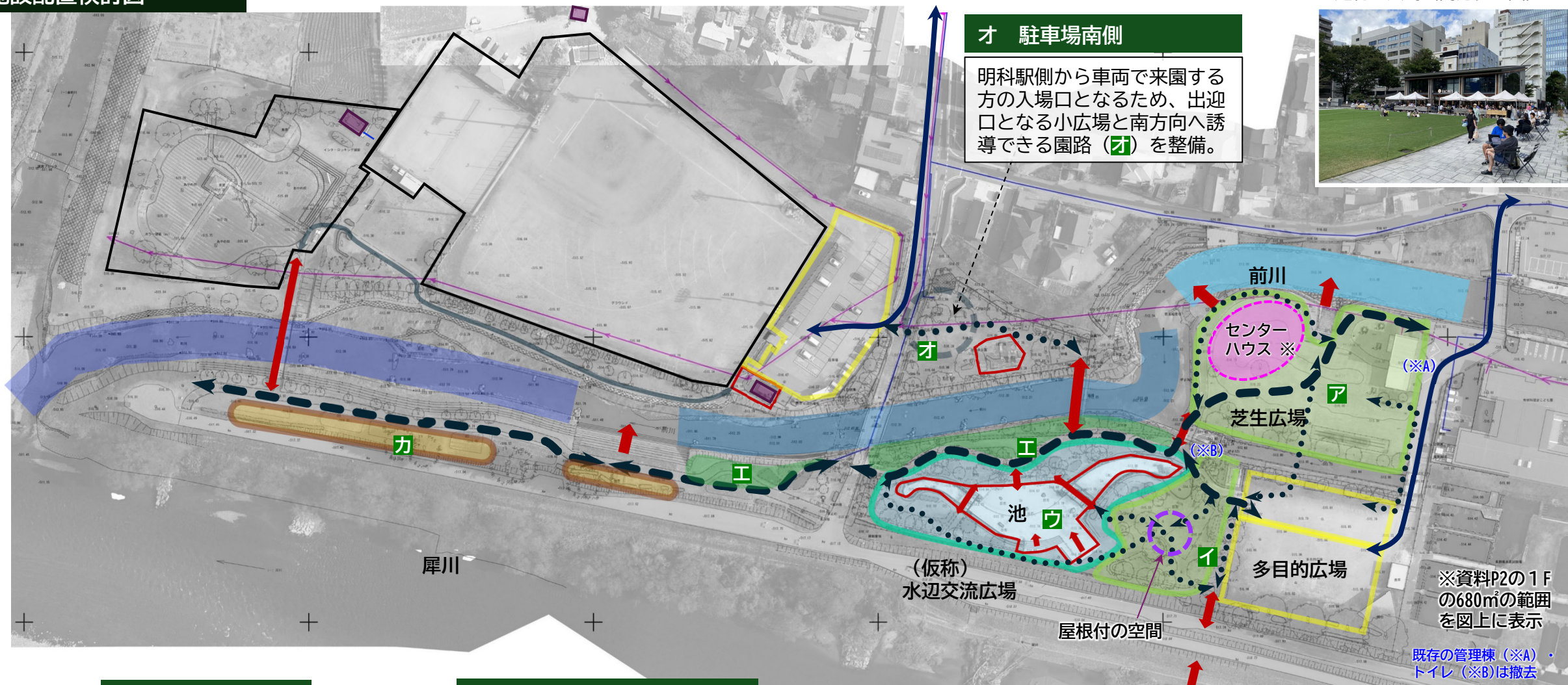
- ⇄ 自動車による公園入退場
- ⇄ 水辺へのアクセス・水辺の横断
- 駐車場（※1 薪能：テントエリア）  
（※2 薪能：客席・ステージ）

##### 整備・改修

- ⇄ 公園内主動線
- ⇄ 徒歩動線（整備）
- ⇄ 既存徒歩動線の部分改修

#### 上下水接続条件

- 既存下水管
- 水道（公園敷地外：本管）



### オ 駐車場南側

明科駅側から車両で来園する方の入場口となるため、出迎口となる小広場と南方向へ誘導できる園路（オ）を整備。



### カ 犀川沿い

カ一帯では、犀川方向の眺めを享受（犀川沿いの樹木の伐採予定あり）しながら滞在できるエリアを整備。  
（既存の植栽を減らし、キャンプ利用、移動可能な仮設ハウスでの滞在、イベント利用等も可能な広場空間を確保）

### ウ・エ 池周囲・前川左岸

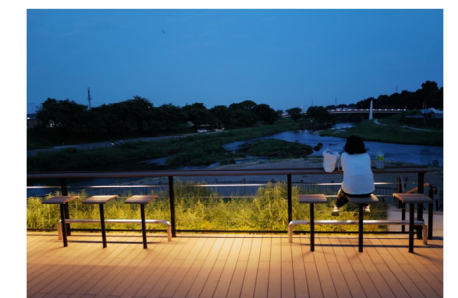
○前川沿いに滞留できるエの広場空間を確保。そのために、周囲の見通しを遮る低木類の除去、植栽の低減を図りつつ、視線の変化も導ける線形の園路に改修。

○ウの池の周囲も、エと同様低木を減らして見通しを確保しつつ、池横断用の人道橋に接続する園路の線形を見直し、緑量・彩り重視の植栽空間から、居心地の良い水辺の広場機能を高める。池の水は地下水利用に切り替え。

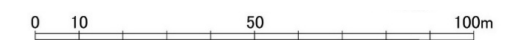
### エ 参考イメージ



園路整備のイメージ



柵の更新が可能な区間が候補





## 6.3 宿泊機能配置の検討

候補① 運営・体験交流、飲食提供の機能（680㎡程度）+合宿利用 40人収容（320㎡程度） 2F建て

### (1) センターハウスの機能・規模

延床面積 1,000㎡程度  
機能  
体験交流・飲食・合宿

	機能	規模目安
1F	エントランス・待合、受付・事務室、救護室、レンタルスペース、ランドリースペース	180㎡程度
	更衣室、シャワー	90㎡程度
	トイレ	60㎡程度
	カフェ・厨房	130㎡程度
	交流スペース（一部ワークスペース）	95㎡程度
	階段・廊下・通路等	85㎡程度
	倉庫（艇庫）	40㎡程度
2F	宿泊室・トイレ	320㎡程度
合計		1,000㎡程度

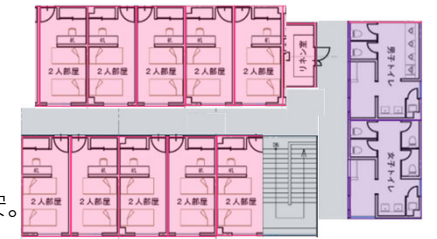
### (2) 宿泊機能の考え方

- 合宿やイベント、アウトドアコンテンツによる体験交流施設として集客を図りつつ、交流を目的として旅行する層を取り込んで関係人口創出に寄与
- ドミトリータイプ：2Fベッドで1室4人×10部屋で同時に40人程度が収容できる共同利用を基本とする宿泊室を確保



【必要面積検討のための参考スタディ】  
本資料のP2の図面の2F居室のうち2人部屋を2F建てにする等して、4人部屋としこれを10室確保。

宿泊室18㎡×10=180㎡  
トイレ53㎡相当  
倉庫・廊下等 68㎡  
リネン室+廊下12㎡  
上記の小計313㎡。  
外階段等含め320㎡を目安。



### 龍門淵公園・あやめ公園一帯 施設配置検討図

#### 公園空間（ゾーン）

##### 既存の機能の維持

- あやめ植栽・運動施設
- 近年国庫補助により整備した施設
- トイレ

##### 公園整備・改修

- イベント・体験利用の空間  
屋根付き空間と一体での体験交流活動のゾーン
- 水辺体験導入ゾーン  
止水面での水辺体験
- 前川沿いの滞留空間づくり
- エントランス広場整備
- 犀川を眺めながらの滞留空間
- 前川整備  
リバーサーフィン  
中級コース  
上級コース

#### 動線

##### 既存の機能の維持

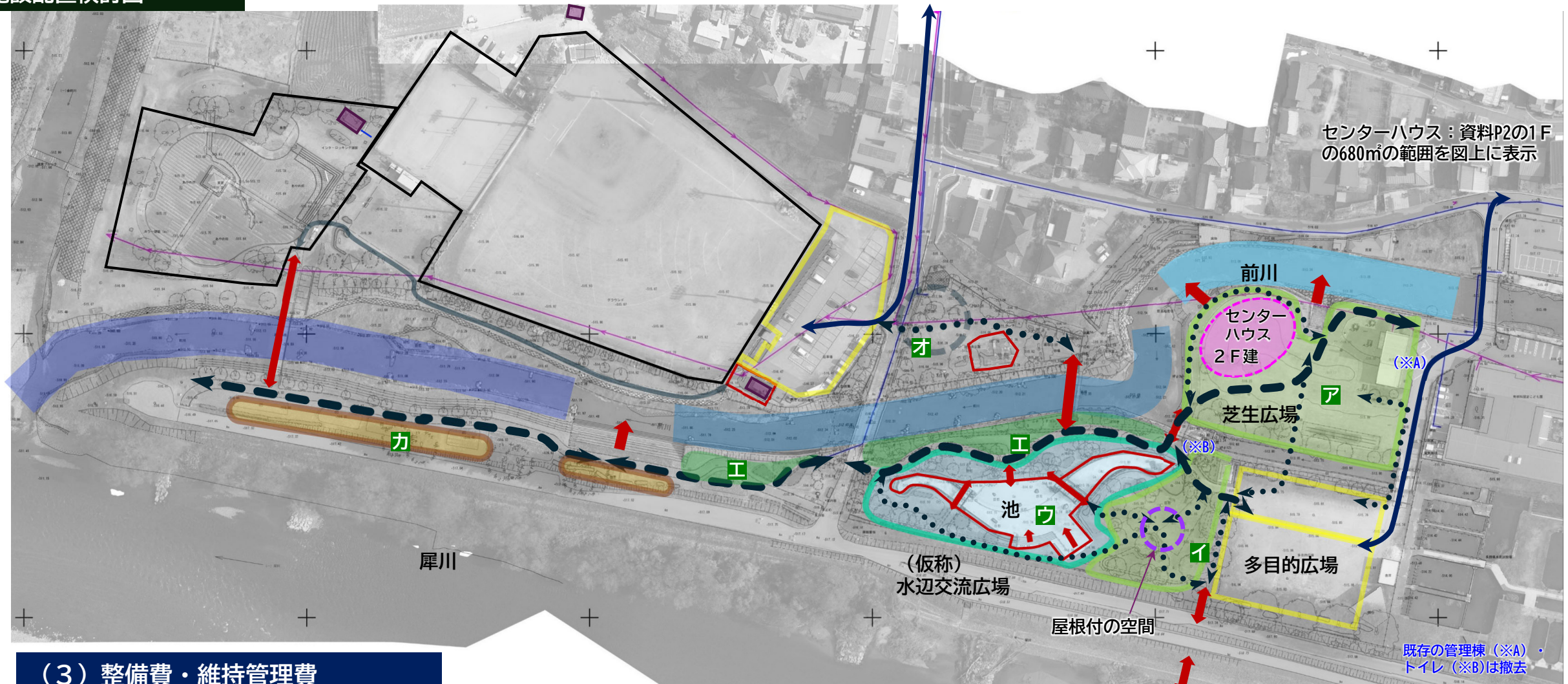
- ⇄ 自動車による公園入退場
- ⇄ 水辺へのアクセス・水辺の横断
- 駐車場（※1 薪能：テントエリア）  
（※2 薪能：客席・ステージ）

##### 整備・改修

- ⇄ 公園内主動線
- ⇄ 徒歩動線（整備）
- ⇄ 既存徒歩動線の部分改修

#### 上下水接続条件

- 既存下水管
- 水道（公園敷地外：本管）



### (3) 整備費・維持管理費

- 区域ごとに整備水準が異なるため、整備単価を個別に設定して試算
- センターハウスを中心にした施設運営費は市内の類似施設の1㎡あたりの単価を面積に乗じて計上。
- 利用者数は年間の誘客の可能性のある人数を過年度のイベント等の実績から算定。現時点で確実性のある人数で試算。（運営次第で増える要素は加味していない）

整備項目	数量	単位	単価(円)	金額(円)	備考
センターハウス整備	1,000	㎡	710,000	710,000,000	
什器・厨房機器	1	式	14,000,000	14,000,000	
管理棟解体	1	式	14,000,000	14,000,000	
電気設備・給水設備	1	式	118,000,000	118,000,000	受変電・受水槽・園内照明
園路広場整備【南】	10,200	㎡	30,000	306,000,000	横断橋設置、SI移設含む
園路広場整備【北】	5,600	㎡	12,000	67,200,000	
計				1,229,200,000	1万円以下切り捨て
消費税込				1,352,120,000	

運営項目	数量	単位	単価(円)	金額(円)	備考
A 施設運営費	センターハウス他	1,000	㎡	40,500	40,500,000 天平の森R4-6 実績×1.5
B 利用料収入	宿泊利用	2,000	人	4,500	9,000,000 合宿、大会等利用者見込み数の約半数
	体験料	2,000	人	1,000	2,000,000 一般利用者(※)の20人に1人
	研修受入	2	件	500,000	1,000,000
	飲食	6,000	人	700	4,200,000 一般利用者の15%
B 小計				16,200,000	
C A:施設運営費-B:利用料収入				24,300,000	指定管理料相当
D 公園施設管理費	龍門淵・植物管理	1	式	3,500,000	
市の負担額 推計				27,800,000	C+D

(※) 一般利用者：R7年度実施 第2次緑の基本計画策定アンケート調査からの市内の年間利用者数の推計値 約40,000人（詳細はP1-6参照）



候補② 運営・体験交流、飲食提供の機能 (680㎡程度) 1F建て 宿泊は分離・段階整備 (トレーハウス・キャンプ等)

(1) センターハウスの機能・規模

680㎡程度  
体験交流・飲食

機能	規模目安
エントランス・待合、受付・事務室、救護室、レンタルスペース、ランドリースペース	180㎡程度
更衣室、シャワー	90㎡程度
トイレ	60㎡程度
カフェ・厨房	130㎡程度
交流スペース (一部ワークスペース)	95㎡程度
階段・廊下・通路等	85㎡程度
倉庫 (艇庫)	40㎡程度
合計	680㎡程度

(2) 宿泊機能の考え方

- 変化の激しい社会のニーズにも対応しながら、一帯にはない宿泊、滞在機能を、今後まちづくりとの連携で進める必要性から、コンテナハウスまたはトレーハウス設置、キャンプエリア等の確保に力点 (図中の **カ**)
- キャンプエリア (運営次第ではベークキュー施設も候補) 等の確保で、宿泊利用の誘致に加え、市民や地域も昼間に人でにぎわう空間の創出も重視

カでの滞在利用の参考イメージ

**カ** 区域の候補 (参考イメージ)

護岸上のキャンプエリア

川床BBQの例

地方のまちなかの近隣公園でトレーハウスを利用し賑わい創出



長瀬オートキャンプ場

都幾川ときたまひみつきち COMORIVER

むつ市 代官山公園

龍門淵公園・あやめ公園一帯 施設配置検討図

公園空間 (ゾーン)

既存の機能の維持

- あやめ植栽・運動施設
- 近年国庫補助により整備した施設
- トイレ

公園整備・改修

- イベント・体験利用の空間  
屋根付き空間と一体での体験  
交流活動のゾーン
- 水辺体験導入ゾーン  
止水面での水辺体験
- 前川沿いの滞留空間づくり
- エントランス広場整備
- 犀川を眺めながらの滞留空間
- 前川整備  
リバーサーフィン  
中級コース  
上級コース

動線

既存の機能の維持

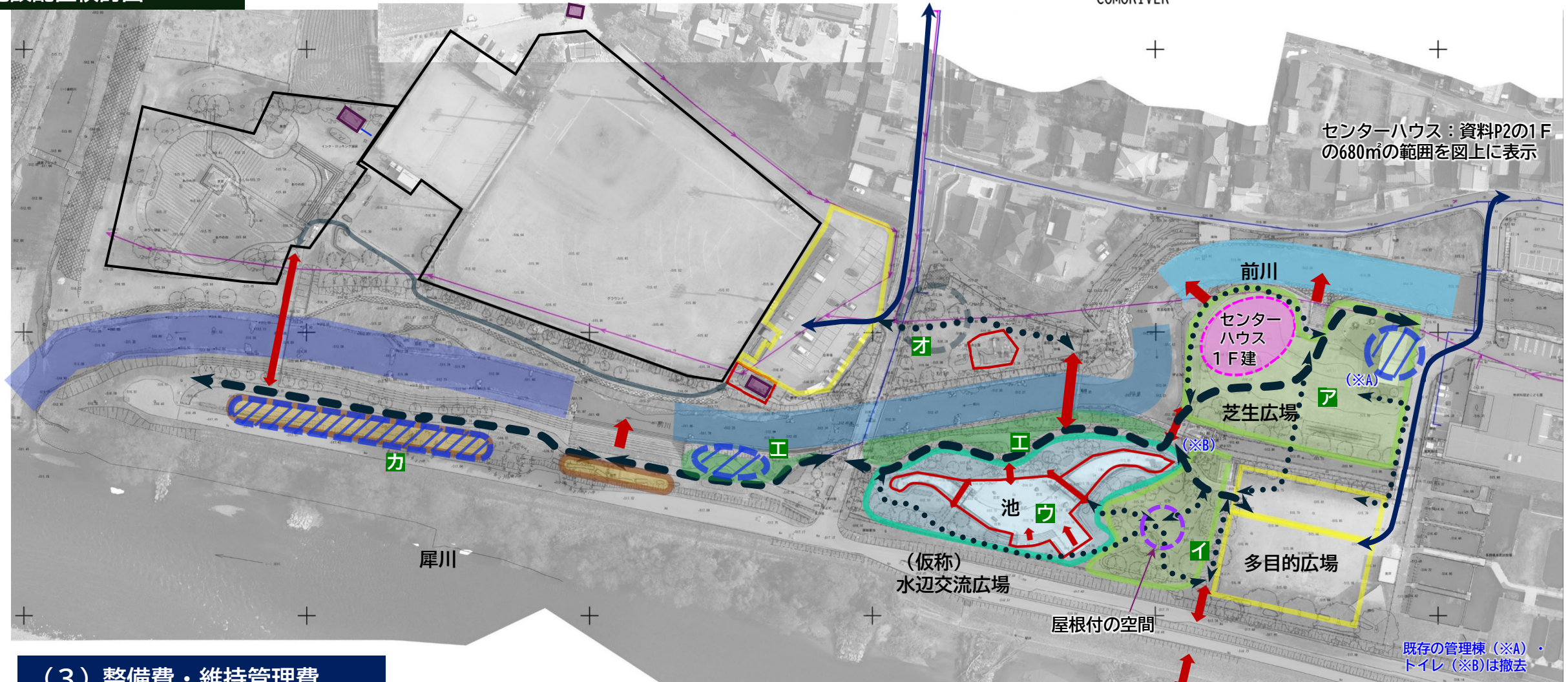
- 自動車による公園入退場
- 水辺へのアクセス・水辺の横断
- 駐車場 (※1 薪能: テントエリア)  
(※2 薪能: 客席・ステージ)

整備・改修

- 公園内主動線
- 徒歩動線 (整備)
- 既存徒歩動線の部分改修

上下水接続条件

- 既存下水管
- 水道 (公園敷地外: 本管)



センターハウス: 資料P2の1Fの680㎡の範囲を図上に表示

既存の管理棟 (※A)・トイレ (※B)は撤去

(3) 整備費・維持管理費

○算出方法は候補①に同じ。

○飲食利用、体験利用 (レンタル) の数は候補①と同じ水準で設定。  
○両者を比較すると、候補②の整備コストは候補①に比べ約2億円縮減、運営費に関しての市の負担は両者で大きな差がない。

整備項目	数量	単位	単価 (円)	金額 (円)	備考
センターハウス整備	680	㎡	710,000	482,800,000	
什器・厨房機器	1	式	9,000,000	10,000,000	
管理棟解体	1	式	14,000,000	14,000,000	
電気設備・給水設備	1	式	118,000,000	118,000,000	受変電・受水槽・園内照明
園路広場整備【南】	10,200	㎡	30,000	306,000,000	横断橋設置、SI移設含む
園路広場整備【北】	5,600	㎡	18,000	100,800,000	キャンプ機能分割高
計				1,031,600,000	1万円以下切り捨て
消費税込				1,134,760,000	

上記の他にトレーハウス整備で1棟あたり15,000千円 (3~4人収容) の追加が考えられる。

運営項目	数量	単位	単価 (円)	金額 (円)	備考
A 施設運営費	センターハウス他	680	㎡	40,500	27,540,000 天平の森R4-6 実績×1.5
B 利用料収入	宿泊利用 (テントサイト)	380	サイト	3,000	1,140,000 4-11月240日×8サイト×稼働率20%
	体験料	2,000	人	1,000	2,000,000 一般利用者 (※) の20人に1人
	飲食	6,000	人	700	4,200,000 一般利用者の15%
小計				7,340,000	
C A: 施設運営費-B: 利用料収入				20,200,000	指定管理料相当
D 公園施設管理費	龍門淵・植物管理	1	式	3,500,000	
市の負担額 推計				23,700,000	C+D

上記の他にトレーハウス1棟 (25㎡) で30万円 (12000円/㎡) 程度の運営費追加が考えられる。  
(※) 一般利用者: 前ページに同じ



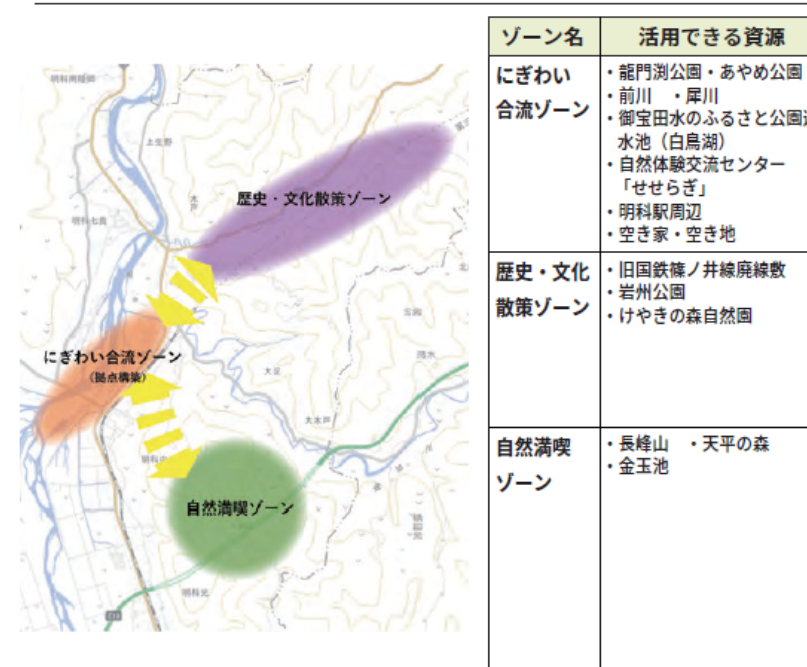
# 7. 地域を含めた段階的發展

- 当初の基本構想で目指している目標像に立ち返り、過疎化への対策につながるまちづくりの展開を描く必要がある。
  - 「暮らしてみたくなるまち」「(泊まって)過ごしたくなるまち」にしていくことが、当面の目標と考えられる
- その展開のきっかけを公園で公民連携事業で生み出し、その輪を広げる役割を市街地あるいは明科地域全体で担う流れが必要。そのイメージを下図に例示。
- 供用後のまちづくりの像をもちながら、公園を拠点としてつつ明科地域一帯の過疎化対策につながる具体的な取り組みをより明確にしていく(一例としてプロジェクト立ち上げ)必要があると考えられる。

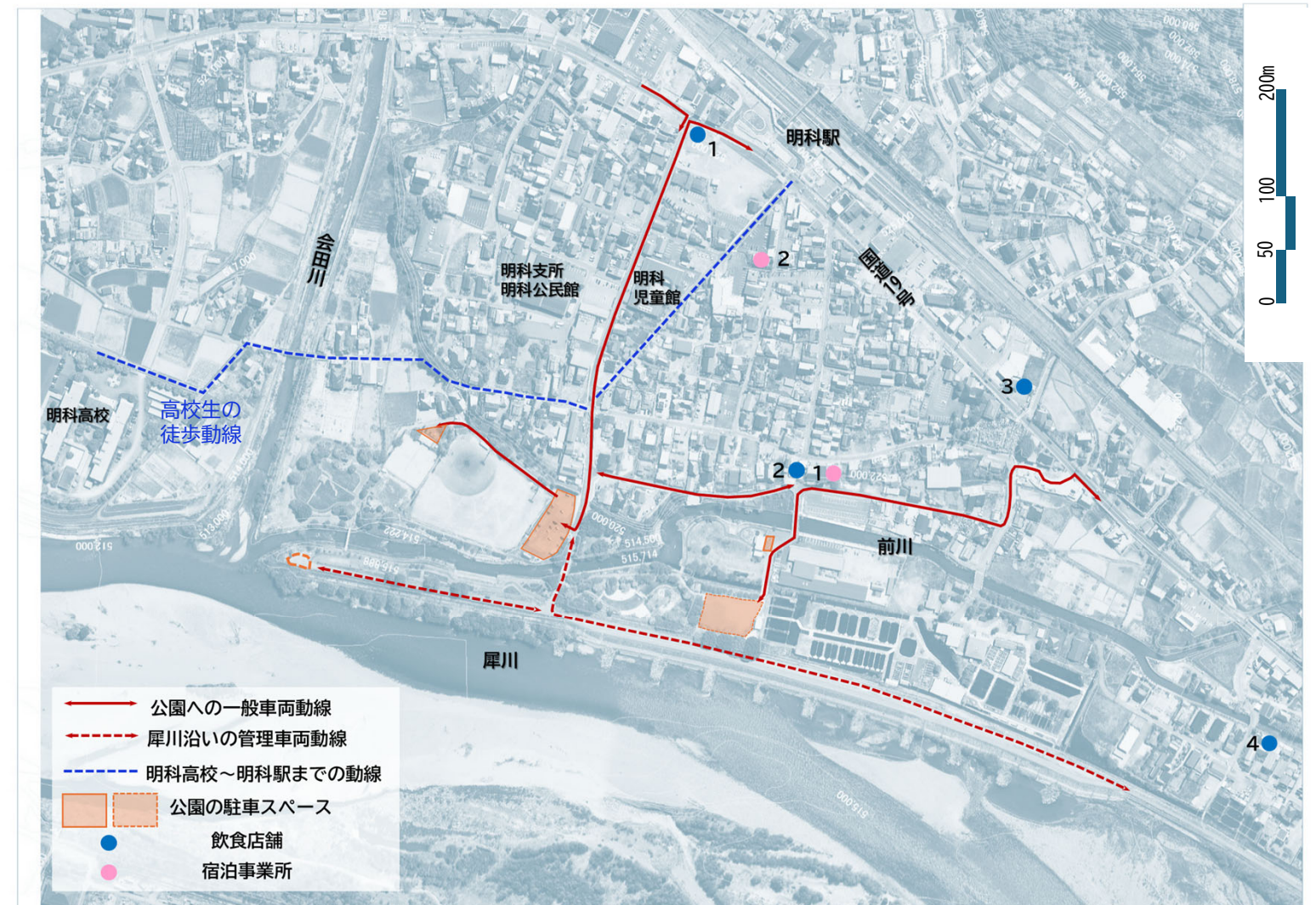
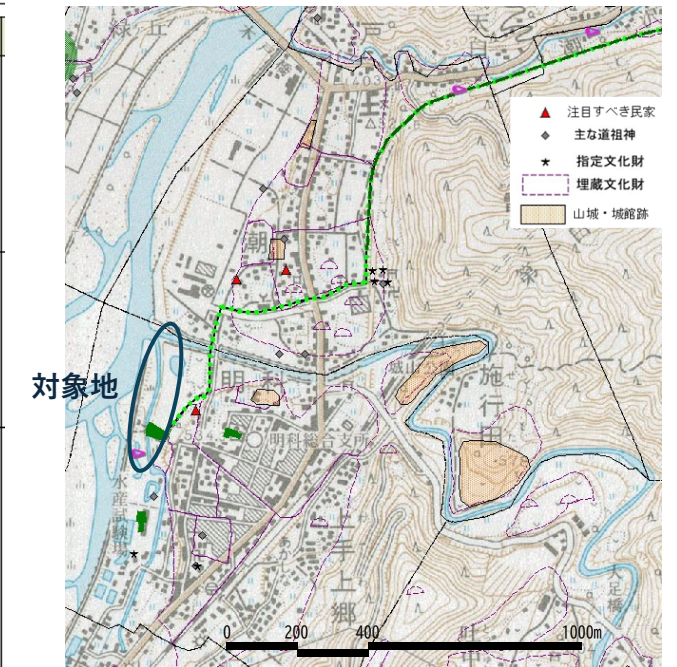
【参考】公園整備を契機に進める東部アウトドア拠点整備基本構想の展開イメージ

項目	公園		市街地(明科地域)
	行政	民間(指定管理者)	民間主体(+行政支援)
構想の目標	人 自然 歴史が巡る 水郷のにぎわい合流拠点 幅広い世代が集まる まちを巡る 新たな出会いや活動が生まれ巡る場 明科に対する誇りと愛着を一層深める場		
果たすべき役割	市民、来訪者が訪れたいくなる(集まる)場を整える。  まちづくりに関わる人が活躍できる土台を整える。	公園利用者、来訪者のニーズに応える空間とサービスの提供。  体験・交流、食提供、宿泊の3つの場面の提供。	一帯の価値を掘り起こして高めるしくみづくり、仕掛けの実践。  基本構想の将来像を見据え、必要なソフトを構築する複数のプロジェクトの運営
R11頃まで 公園内の整備	河川整備 → 公園整備 → 建築整備 → 整備完了	指定管理・民営施設設置候補者を公募 → 収益性検証 → 民間による施設設置 → 開業準備	連携・実践体制の構築(例:かわまち協議会への部会設置等) パート機会等を活かし社会実験 → 夜間利用宿泊体験 → 必要な準備プロジェクトを動かせる組織づくり
供用後5年間	公園施設供用	公園を活かして過ごせる時間を創出 滞在が生まれるプログラムやサービス、交流機会	ストック活かして、足りない機能を創出 滞在価値向上につながる場づくり、事業化への発展
さらに5年間	地域づくり活動・公園維持管理運営等の側面からの支援	定住促進につながる公園-駅前空間を利用したイベントやサービスプログラム	暮らしてみたくなるまち 泊まって過ごしたくなるまち

明科地域の全体ゾーニング



例) 公園~廃線敷のつながり



【参考図】明科駅~龍門湖公園一帯の空中写真と公園利用に関する動線(飲食店舗と宿泊事業所はgooglemapより転載)



## 8. 検討課題への対応状況の確認と事業スケジュール

### 8.1 6つの検討課題（p1）への対応状況の整理・確認

- ① 新設予定のセンターハウスに必要な機能・規模の設定（各種制約・運営条件等も考慮しての適正配置の検討）
  - ▶ 民間事業者との対話による市場性調査、事業展開の可能性検討を経て、公園整備における公民連携の方針を定め、センターハウス整備の位置、規模及び宿泊機能の確保の方針を2候補具体化した（P2～7, 10～12）。
- ② 広場の確保や景観形成、一体的な動線確保に留意した施設規模及び配置（建築・広場・園路等）と植栽再整備の検討
  - ▶ 第5回協議会で示した広場や植栽環境の課題を踏まえ、動線、空間構成（利用ゾーン設定）の検討を行い、施設配置を検討した（P9～10）。
  - ▶ 前川沿い（中級コース付近）に滞留できる空間を確保する広場・動線整備を計画
- ③ 池の改修の具体像
  - ▶ 地下水利用に切り替える方針を第5回協議会で提示
- ④ キャンプ利用導入の要否
  - ▶ 基本構想段階での施設配置方針、立地条件、既存施設との関係、運営条件、等を考慮し、その候補箇所を列挙。キャンプに限らず、トレーラーハウス、コンテナハウス等を利用する手法も考えられる（P12）。
- ⑤ 水際の安全対策
  - ▶ ⑤の園路部分の安全対策は、今後の設計の詳細化のなかで検討の予定。
- ⑥ 明科駅からの動線・活性化策も含めた整備検討
  - ▶ 現在、明科まちづくりまるごと勉強会が関係者有志で進行中。ここでの議論も反映させていく方法が候補のひとつとして考えられるが、進め方等の詳細については調整中。

#### 【検討課題の補足】

##### ユニバーサルデザインへの配慮の具体化

- ▶ ・歩きやすい園路、バリアフリー（都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン）
- ・みんなのトイレ（多様な人が誰でも安心して利用できるバリアフリー・多機能トイレ）
- ・インクルーシブな遊具の導入
- ・アクセシビリティの強化 等の検討

### 8.2 事業スケジュールイメージ

#### センターハウスの設計・整備・運営（DBO）事業者を公募で定める場合

区分/年度		R7	R8	R9	R10	R11	
事業全般	協議会等意見収集	[R7~R10]					
	民間事業者公募（DBO）		事業者選定	[R8~R11]			
エリア前川	設計	[R7]					
	整備工事	[R8~R10]					
公園エリア	公園	計画設計	基本計画 基本設計	実施設計			
		工事			基盤整備	園地整備	
	橋	設計		人道橋架替	あやめ橋補修		
		建築			計画・設計	センターハウス整備工事	

#### 施設整備は市で行いながら、指定管理候補の民間事業者者を選定し、そのノウハウを反映

区分/年度		R7	R8	R9	R10	R11	
事業全般	協議会等意見収集	[R7~R10]					
	民間事業者公募（指定管理）		候補者公募・選定	運営戦略・設計整備への助言 開業体制準備	非公募審査・指定	開業準備・開業	
エリア前川	設計	[R7]					
	整備工事	[R8~R10]					
公園エリア	公園	計画設計	基本計画 基本設計	実施設計			
		工事			基盤整備	園地整備	
	橋	設計		人道橋架替	あやめ橋補修		
		建築	計画設計	センターハウス基本・実施設計			
工事					センターハウス整備		